

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	Endoscopic modified medial maxillectomy を用いて摘出した上顎洞性後鼻孔ポリープの検討
研究責任者	耳鼻咽喉科 松下安理華 【研究分担者】浜松医科大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 加納康太郎
研究実施体制	聖隷浜松病院
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2025 年 8 月 31 日
対象者	2019 年 8 月から 2023 年 5 月までの期間、当科で手術治療を行った上顎洞性後鼻孔ポリープの患者さん
研究の意義・目的	上顎洞性後鼻孔ポリープは、再発率が高い疾患であり、ポリープを基部から完全に切除することが重要です。しかし、鼻腔内での具体的なアプローチ方法については、現在のところ統一された基準がないのが現状です。また、術前にポリープの基部を正確に特定することは難しく、手術中の状況に応じてアプローチ方法を変更・追加する必要がある場合があります。 当院では、近年「Endoscopic Modified Medial Maxillectomy (EMMM) アプローチ」という方法を用いて治療を行っています。この方法は、上顎洞内に広くアクセスできる手術方法であり、ポリープの部位に依存せずに切除を完了することが可能です。当院では、EMMM アプローチを用いた治療について、手術時間や出血量、再発率、有害事象などを検証しながら、上顎洞性後鼻孔ポリープに対するより適切な治療方法を提案します。
研究の方法	電子カルテから氏名や生年月日を特定できないようにした状態で、上顎洞性後鼻孔ポリープに対する外科的治療を行った患者さんの情報を抽出します。 主に、手術時間や出血量、再発率、有害事象などを検証しながら、上顎洞性後鼻孔ポリープに対するより適切な治療方法を提案します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 耳鼻咽喉科科 (氏名) 松下安理華 TEL: 053-474-2222 (代表) 耳鼻咽喉科外来 9:00～17:00 平日